

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 3 月 8 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (3/8 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 1.8 m ³ /h	23.4	106.9 kPaabs	0.00 vol%
		給水系：約 4.7 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 6.1 m ³ /h	42.0	119 kPaabs	0.07 vol%
		給水系：約 2.9 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 5.0 m ³ /h	53.1	101.6 kPaabs	
		給水系：約 1.8 m ³ /h			

【2号機】・3/7 原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施。分析の結果、当該システム入口でキセノン 135 が検出限界値 ($1.0 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$) 未満であり、再臨界判定基準である 1Bq/cm^3 を下回っていることを確認。

【4号機】【5号機】【6号機】・特に変化なし

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (3/8 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中*	27.5
2号機	循環冷却システム	運転中	15.7
3号機	循環冷却システム	運転中	15.4
4号機	循環冷却システム	運転中	28

*システム二次系エアフィンクーラー：停止中

【2号機】・1/19 11:50～ 使用済燃料プールの塩分濃度を低減させるため、塩分除去装置の運転を開始。

・3/6 13:25 塩分除去装置において、処理水受タンクの水位上昇に伴う警報が発生し、当該装置が自動停止。なお、使用済燃料プール循環冷却システムについては、運転を継続しており、冷却への影響なし。また、現場にて当該タンクより水漏れがないことを確認。その後、原因調査の結果、当該装置へ供給される水の浄化が進んだことによって、当該装置の逆浸透膜ユニットによる処理水が増加傾向となり、処理水受けタンクへの供給量が同タンクからの排水量を上回ったため、水位の上昇に至ったと判明。

・3/7 16:04 同装置を起動し供給側と排水側の水量のバランスを調整して試運転を実施した結果、水量のバランスに問題ないことを確認したことから、17:06 本格運転へ移行。

【4号機】・3/8 14:25～16:10 使用済燃料プールへヒドラジン[腐食防止剤]を注入(約 2 m³)

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	3/7 13:55 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	3/7 13:48 ~ 3/8 10:01 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (3/8 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	停止中	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H24/3/1～ 水処理設備の信頼性向上を目的とした改造工事のため、セシウム吸着装置を停止* (3/15迄、停止予定)。
3/2～ 第二セシウム吸着装置を停止* (3/10迄、停止予定)。
※改造工事に伴う水処理設備の停止による各建屋の水位上昇を評価したところ、各建屋の水位は制限値内に維持可能であることを確認している。また、淡水化処理した水は十分にあることから、原子炉注水への影響もない。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。

以上